

すいか



森川成美

森シホカ・絵

指がぬるぬるする。

麻紀は、スーツのグレーのスカートで、手を拭いた。ピアノの発表会だというのに、ハンカチを忘れた。

指の汗は、拭けばふくだけ、また出てくる。

(もう、これっきりだから。これでおしまいだから)

左胸あたりのどうしようもない動きを止めようと横隔膜に力を入れてみてから、それはしゃっくりの止め方だったと思いついた。息をつめても、どきどきは止められない。

ますます激しくなって耳の奥にずんずんと共鳴している。動きたくなくて、うっと、体を前に曲げたら、パイプの

折りたたみですが、がたりと音を立てそうになり、思わず肩をすくめた。

演奏中に音を出してはいけない。

舞台の上では、一人が演奏を終わって、ピアノのいすを降りておじぎをしている。

このスーツは、発表会用に買ってもらった。

生地は薄い夏用のウールだ。手を拭いても、がさがさするばかりで、水は吸わない。思わず上着の胸あたりに手のひらをこすりつけた。だが、結局同じ生地だから、吸水力に違いはない。

あきらめて、ひざに乗せてあったフラミンゴのような色のプロگرامを手を取った。とたんに、しぼのある上等な紙が、汗の水気で指の形にへこむのがわかった。